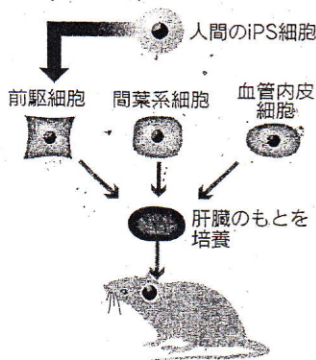


iPS細胞から肝臓

マウス体内、再生医療に道

横浜市大

IPS細胞から人間の肝臓を作る方法



マウスの体内で人間の肝臓に成長

横浜市立大の谷口英樹教授らは、人間の新型万能細胞（iPS細胞）などをを使って、マウスの体内で肝臓を作ること成功した。大きさは5ミリほどだが、たんぱく質を作るなど肝臓の機能の一部を

確認した。失った体の機能を、細胞から作った臓器で補う再生医療の進展につながる成果。横浜市で開く日本再生医療学会で14日発表する。研究グループはまず、iPS細胞を肝臓の細胞

になる手前の「前駆細胞」に育てた。これに、血管の内側を作る「血管内皮細胞」、細胞をつなぎ合わせる働きを持つ「間葉系細胞」を加えて培養。

受精卵が胎児に育つときに肝臓ができる条件を再現した。こうして作った肝臓の

もととなる細胞をマウス頭部に移植したところ、人間の血管網ができた。約2カ月後、肝臓とほぼ

同様の組織に育ったという。この組織は薬物を分解するなど肝臓の働きをしているとわかった。